

<報道発表資料>

カテゴリー:お知らせ

令和5年3月3日

第16回本多静六賞の受賞者決定について ～「犬井 正（いぬい ただし）氏」が受賞～

埼玉県では、森林に関する学術研究や実践活動に尽力し、森林や公園の造成等を通じ、社会に貢献した日本初の林学博士である本多静六博士の精神を受け継ぐ個人又は団体を、「本多静六賞」として表彰しています。

今回は、12件の個人・団体の推薦応募があり、選考委員会での審査を経て、下記のとおり決定しました。

● 受賞者

犬井 正（いぬい ただし）氏

さいたま市在住
獨協大学名誉教授

● 受賞理由

- (1) 里山・平地林と人との関わりの学術研究活動による貢献
山林と平地林、里山を対象として林野と人間の諸活動に関する研究を行い、専門誌への論説などのほか、多くの学術書を上梓した。
これらの身近なみどりの保全や活用の普及・啓蒙活動により、平地林や里山の存在意義を一般に広く定着させ、その価値を再発見し高めさせた。
- (2) 緑と共生する社会づくりへの貢献
くぬぎ山地区自然再生協議会会長を務め、くぬぎ山地区の自然再生事業の基礎を築いた。また、埼玉県平地林整備指針検討会の座長を務め、さらに武蔵野の落ち葉堆肥農法の「世界農業遺産」認定申請活動のサポートなど、長年にわたり本県のみどりを守る施策に貢献した。
- (3) 里山地域を活性化する実践活動の広がりへの貢献
里山の活用に観光的要素を組み込んだ手法の研究を実践し、地域住民の誇りや愛着を育む里山のエコツーリズム活動に取り組んだ。飯能名栗エコツーリズム推進協議会会長を務め、里山の利活用と地域活性化を結び付けた実践活動が全国の先導役となり広がりを見せている。

■参考情報 本多静六賞の概要

趣 旨：本多静六博士の功績をたたえるとともに、緑と共生する社会づくりを推進する。

対 象：埼玉県にゆかりがあり、学術研究又は実践活動により緑と共生する社会づくりに貢献した個人又は団体

選考方法：本多静六賞選考委員会の選考を経て知事が決定

選考委員会：小川 秀樹 委員長（株式会社埼玉新聞社相談役）外7名

過去の受賞者：第1回 山中 敬久 氏（林業経営者）
第2回 NPO 法人埼玉森林サポータークラブ（森林ボランティア団体）
第3回 原 邦紘 氏（林業経営者）
第4回 斎藤 馨 氏（東京大学教授）
第5回 県立浦和高等学校同窓会（高校OBによる森林づくり活動）
第6回 太田 猛彦 氏（東京大学名誉教授）
第7回 石井 清允 氏（森づくり活動指導者）
第8回 岩田 洋 氏（埼玉森林インストラクター会顧問）
第9回 お菓子な郷推進協議会（菓子製造業団体）
第10回 坂本 全平 氏（林業経営者） 特別賞：久喜市立三箇小学校
第11回 NPO 法人ときがわ山里文化研究所（森林ボランティア団体）
第12回 藺田 稔 氏（秩父神社宮司、京都大学名誉教授）
第13回 関口 定男 氏（前ときがわ町長、埼玉県中央部森林組合顧問）
第14回 栗原 慶子 氏（東吾野女性林研「ときめ木」会長）
第15回 中島 宏 氏（造園技術者）